

2019年7月31日 社長会見要旨

【会見要旨】

本日は「2019年度第1四半期決算」、「ハイブリッドローンによる資金調達」についてお話しいたします。

【2019年度第1四半期決算】

はじめに、「2019年度第1四半期決算」について、お手元の資料1に沿ってご説明いたします。

まずは、2ページの上段「経営成績」の表、左側に記載の「連結」の欄をご覧ください。

売上高につきましては、他事業者への契約切り替えによる販売電力量の減少などはありませんでしたが、燃料価格の上昇による燃料費調整制度の影響や、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響などに加え、建設業を営む連結子会社の売上が増加したことなどから、前年同期に比べ9億円増加の1,785億円となりました。

経常利益につきましては、火力発電所の定期検査基数の増加などに伴う修繕費の増加に加え、水力発電量が減少したことなどにより、前年同期に比べ106億円減少の16億円となりました。

また、四半期純利益につきましては、前年同期に比べ80億円減少の13億円となりました。

2ページ下段「財政状態」の表、左側に記載の「連結」の欄をご覧ください。

自己資本比率は、四半期純利益の計上はありましたが、前年度の期末配当金の支払いなどから、前年度末に比べ▲0.1ポイント低下し、11.0%となりました。

2ページ右側に記載の単独決算につきましては、売上高は1,715億円、経常利益は22億円、四半期純利益は、19億円、自己資本比率は9.8%となりました。

なお、8ページから13ページには、連結決算の収支比較表および販売電力量や供給電力量の実績、単独決算の収支比較表などを記載しております。

また、14ページには当社単独決算における当第1四半期の経常利益の変動要因をまとめております。

以上、2019年度第1四半期決算の概要をご説明いたしました。

《2019 年度の業績見通し》

次に、2019 年度の業績見通しについてご説明いたします。

4 ページをご覧ください。

はじめに、2019 年度通期の販売電力量ですが、当第 1 四半期では概ね計画通りに推移していることから、本年 4 月に公表した販売電力量 239 億 kWh に変更はございません。

また、通期の連結業績につきましては、当第 1 四半期において、渇水による水力発電量の減少などの影響はありましたが、経営基盤強化推進委員会のもと、実施段階での更なる効率化・コスト低減を着実に進めていることから、本年 4 月に公表した予想に変更はありません。

また、単独業績見通しにつきましても同様に変更はございません。

《2019 年度配当予想》

最後に、配当予想についてご説明いたします。

5 ページをご覧ください。

2019 年度中間・期末配当予想につきましては、普通株式は中間配当および期末配当ともに 1 株あたり 5 円とし、年間で 1 株あたり 10 円、また、優先株式については定款の定めに従い実施を予定しており、本年 4 月に公表した配当予想に変更はございません。

2019 年度第 1 四半期決算の説明は以上です。

【ハイブリッドローンによる資金調達】

次に、「ハイブリッドローンによる資金調達」について、ご説明します。
お手元の資料2をご覧ください。

当社は、このたび、財務体質の強化に資する新たな資金調達手法として、ハイブリッドローンを実施することといたしました。

本ローンは、株式の希薄化を伴うことなく、実質的に自己資本の拡充につながるものであり、現状の調達計画の範囲内で、資金調達を行いながら、今後の持続的な投資を支える基盤を確保していきます。

本ローンにより、経年化対策工事など安定供給に資する設備投資を適切に行っていくとともに、経営計画に掲げる積極的な事業領域拡大の方針のもと、ガス供給事業や再生可能エネルギーに関する事業への投資など、「総合エネルギー企業」として成長を遂げるための様々な取組みを推進してまいります。

これらの取組みを通じ、当社は責任あるエネルギー供給の担い手として北海道の持続的発展に貢献してまいります。

私からは以上です。